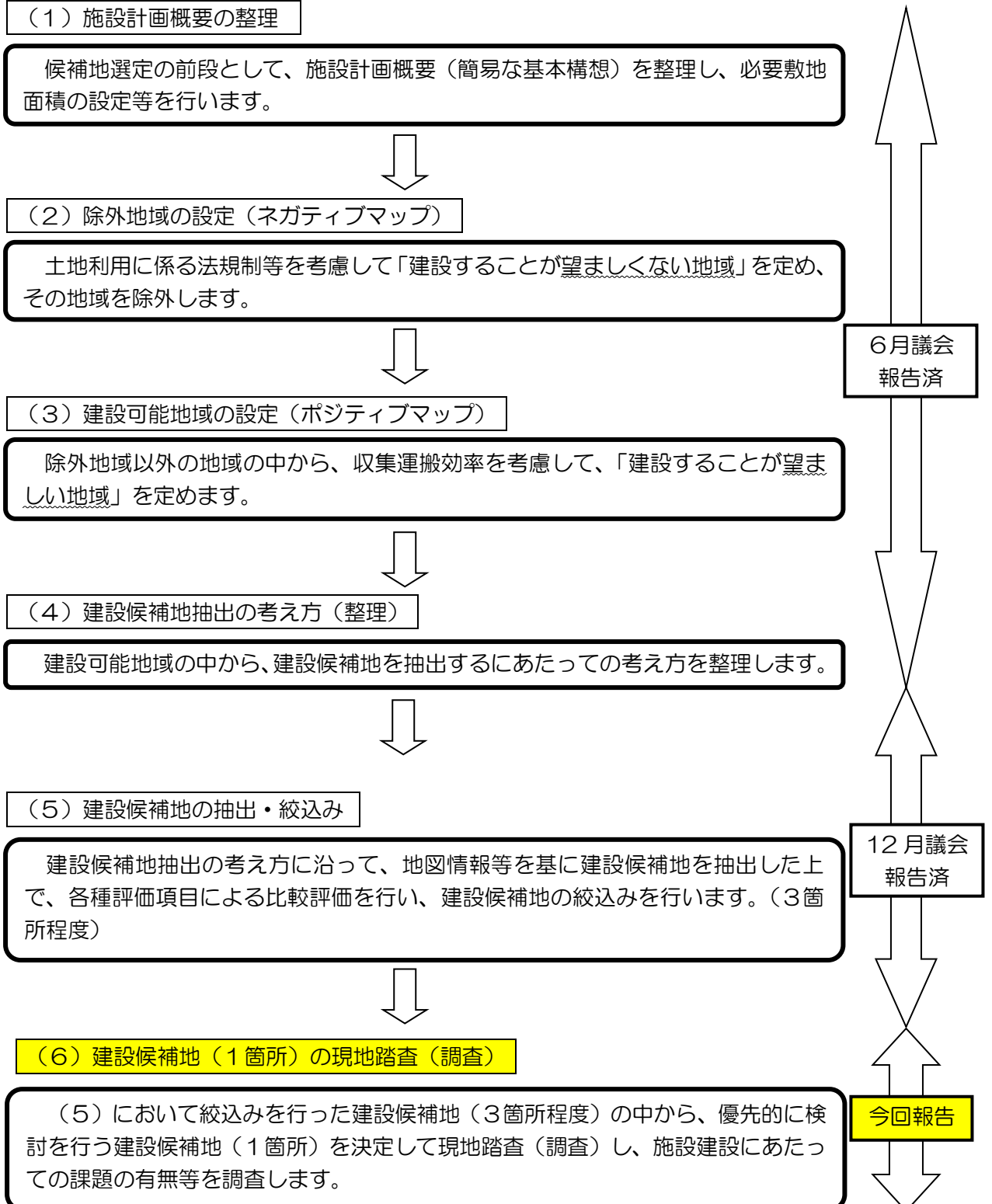


「次期可燃ごみ処理施設」の建設候補地の現地踏査（調査）結果等について

1. 「次期可燃ごみ処理施設」の建設用地選定手順について



## 2. 選定手順内容

### (6) 建設候補地（1箇所）の現地踏査（調査）

(5)において絞込みを行った建設候補地（3箇所程度）の中から、優先的に検討を行う建設候補地（1箇所）を決定して現地踏査（調査）し、施設建設にあたっての課題の有無等を調査します。

【優先的に検討を行う建設候補地（1箇所）】※12月議会報告済（再掲）

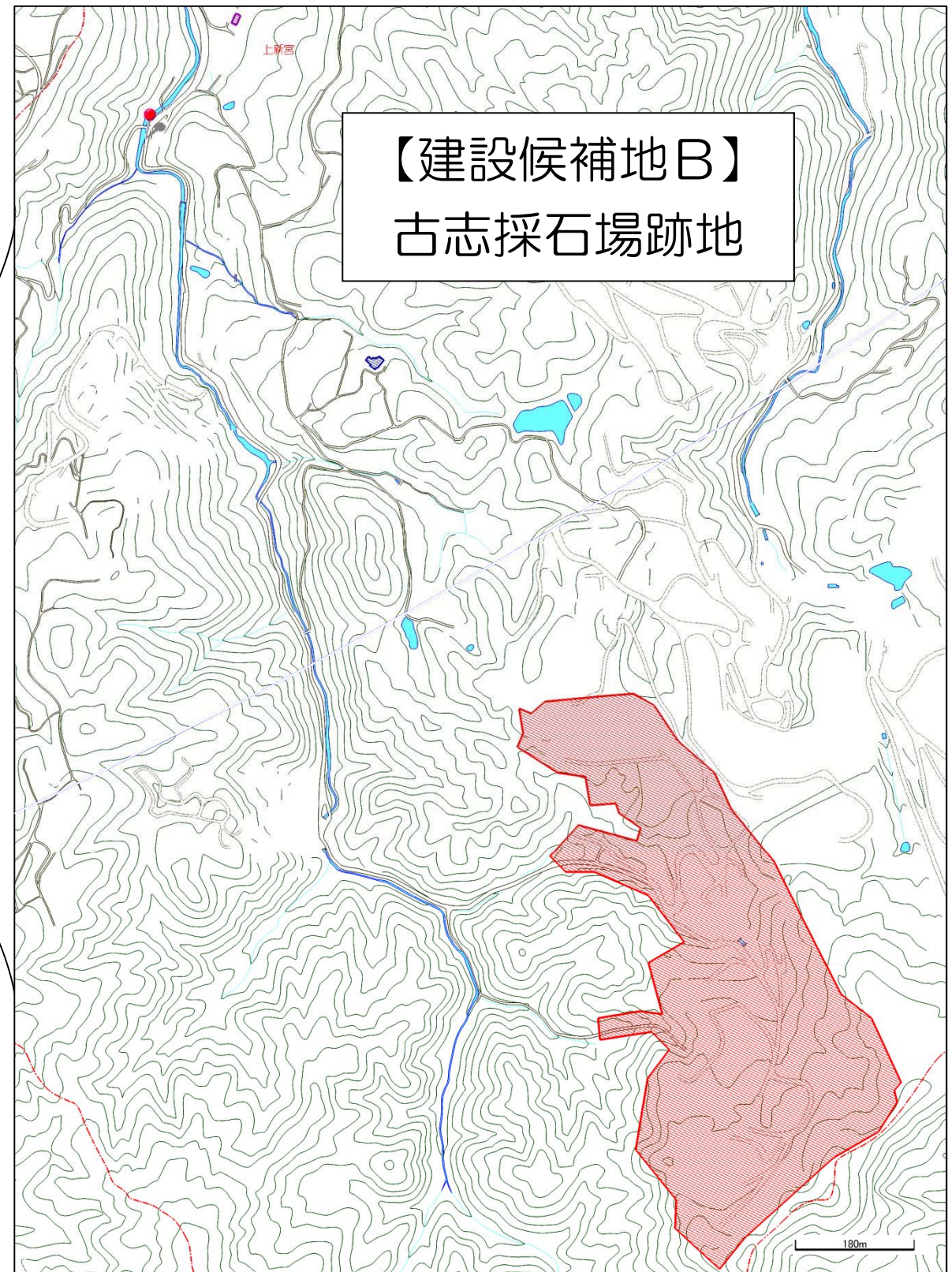
記号	建設候補地
B	古志採石場跡地

※次頁図面のとおり

(理由)

- ① ほぼ全てが市有地であるため、市財産の有効活用が図られるほか、採石事業用地として土地の境界等も調査済みであり、現地踏査（調査）に早期に着手できるため。
- ② 跡地が概ね整地されていることから、平坦地が比較的多く、また、起伏も緩やかであり、造成工事等において最も施工しやすいため。
- ③ ②の造成工事に加え、アクセス道路等のインフラ整備を考慮すると、他の候補地（2箇所）に比べ、最もコストの低減（経済性）が図られる見込みにあるため。
- ④ 建設候補地の比較評価（絞込み）の結果、最も総得点（合計点数）が高い。

なお、地元の「古志地区自治協会」及び「古志採石対策協議会」から、平成25年12月25日に「要望書」（古志採石跡地の利活用に関する要望）が提出されており、その中で、古志採石跡地を市全体のために有効活用するため、「電力供給基地の核として、次期エネルギーセンターの建設地として検討いただきたい」旨要望が 있습니다。



【現地踏査（調査）の結果について】

施設建設にあたっての課題の有無等を調査するため、次の4つの視点を基に現地踏査（調査）を行いました。

- ①地形・地質の視点（地盤、造成）
- ②生活環境の視点（建設候補地周辺、アクセス道路周辺）
- ③自然環境の視点（植生、生物生息）
- ④その他の視点（施工ヤードの確保、工事用道路としての活用、周辺の採石事業の操業、アクセス道路の安全性）

※今回の「現地踏査（調査）」は、施設建設にあたっての課題の有無等を専門的知識から現地に入って調査（考察）を行うものであり、詳細な（大規模な）調査については、建設用地決定後に予定している「施設基本計画」及び「環境影響調査」の中で行うこととなります。

○建設候補地（古志採石場跡地）



<現況>

建設候補地（古志採石場跡地）（以下「建設候補地」という。）は、出雲平野南部の山地部にあり、標高312mの山のふもとに位置しています。

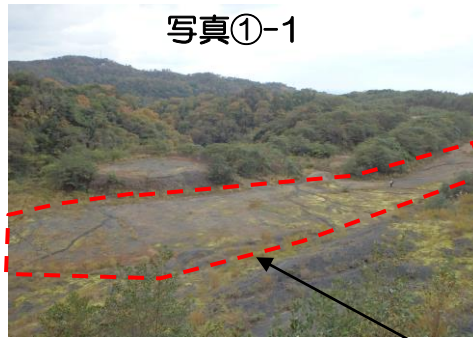
この場所の地質は、文献調査によると、新第三紀の安山岩が主体であり（P.6「地質図」のとおり）、所々に凝灰岩系の風化帯が見られます。

また、建設候補地は、現在、採掘で発生した「ずり」の埋め戻し（盛土）による跡地整理が行われた状態であり、平坦地が比較的多くなっています。（次頁写真①）なお、この「ずり」の土質は砂礫で、 $\phi 2\sim 5\text{mm}$ の大きさが主体となっています。

また、斜面には、「ずり」を用いた腹付け盛土が行われており、盛土の浸食を

防止する改良材による固化が施されています。(写真②) なお、腹付け盛土の法肩では、地山(岩盤)との境界に段差や空隙が見られました。(写真③)

一方、建設候補地周辺にある切土斜面を見ると、硬質な岩盤が露出しており、岩盤の硬さは中硬岩から硬岩程度で亀裂が少なく非常に硬質な状態でした。(写真④) なお、切土・盛土斜面からは顕著な湧水や浸み出しは確認できませんでした。



盛土(平坦地)



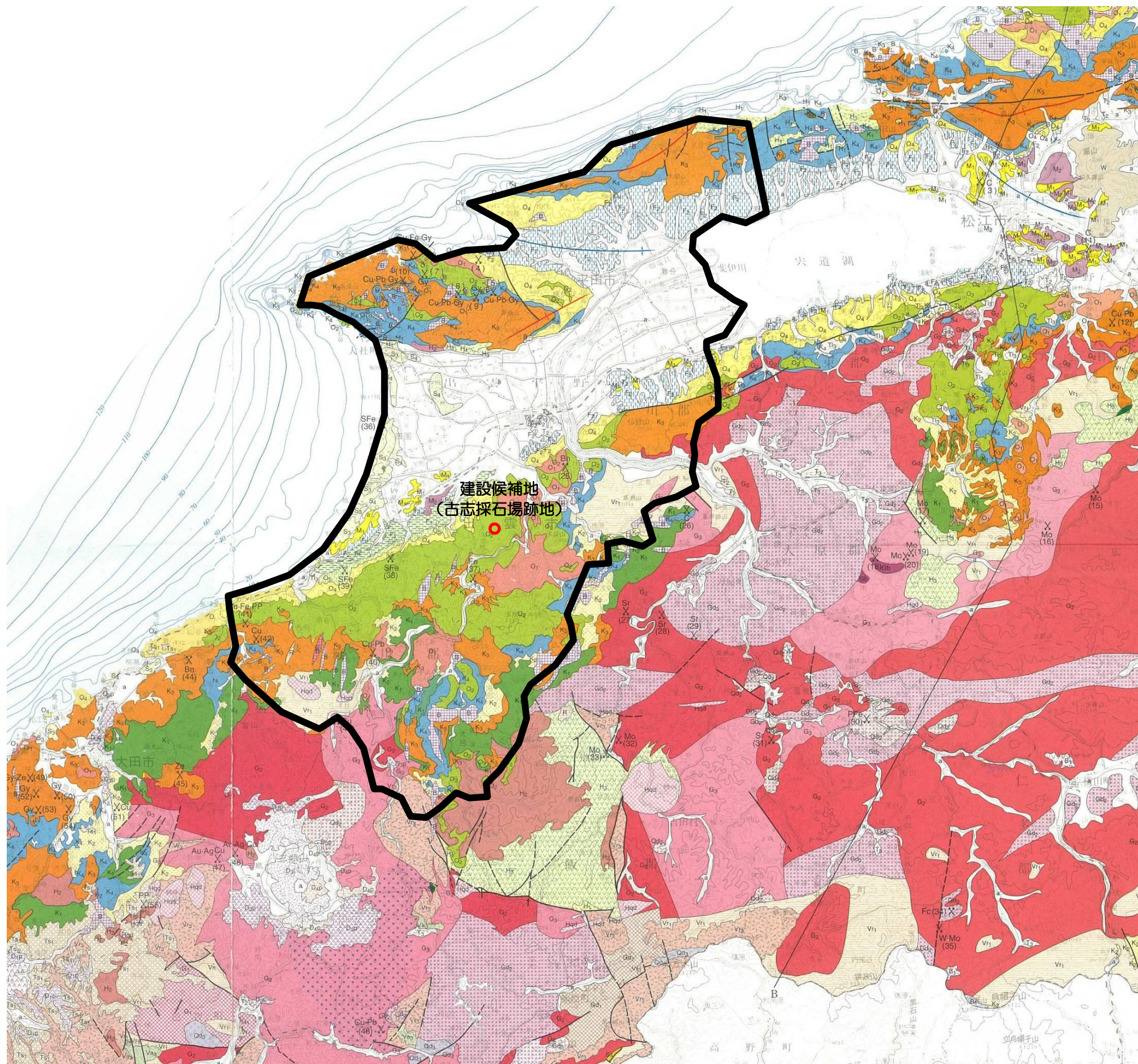
腹付け盛土  
(改良材による固化)



腹付け盛土と地山(岩盤)  
境界に段差、空隙あり



切土斜面は硬質な岩盤(中  
硬岩から硬岩程度)



建設候補地（古志採石場跡地）周辺の地質図

第四紀 Quaternary	沖積層 Alluvial deposits	a	礫・砂・泥 Gravel, sand and mud	
	新砂丘堆積物 Sand dune deposits	S <sub>4</sub>	風成砂 Aeolian sand	
	崖錐堆積物 Talus deposits	T <sub>1</sub>	礫・砂・泥 Gravel, sand and mud	
	古砂丘堆積物 Ancient dune deposits	S <sub>3</sub>	風成砂 Aeolian sand	
	中期更新世 Middle Pleistocene	高位段丘層 Higher terrace deposits	T <sub>2</sub>	礫（一部砂・泥を含む） gravel (partly with sand and mud)
第三紀 Neogene	松江層 Matsue Formation	M <sub>1</sub>	砂岩・泥岩 Sandstone and mudstone	
		M <sub>2</sub>	玄武岩溶岩・火砕岩 Basalt lava and pyroclastics	
	布志名層 Fujina Formation	F <sub>1</sub>	砂岩・泥岩 Sandstone and mudstone	
		F <sub>2</sub>	礫岩・砂岩 Conglomerate and sandstone	
	貫入岩 Intrusive rocks	B	ドレイライト・玄武岩・ひん岩 Dolerite, basalt and porphyrite	
		O <sub>5</sub>	礫岩・砂岩 Conglomerate and sandstone	
		O <sub>4</sub>	砂岩・頁岩 Sandstone and shale	
	大森層 Omori Formation	O <sub>3</sub>	玄武岩溶岩・火砕岩 Basalt lava and pyroclastics	
		O <sub>2</sub>	安山岩溶岩・火砕岩 Andesite lava and pyroclastics	
		O <sub>1</sub>	デイサイト溶岩・火砕岩 Dacite lava and pyroclastics	
		K <sub>5</sub>	玄武岩溶岩・火砕岩 Basalt lava and pyroclastics	
		K <sub>4</sub>	頁岩 Shale	
	川合-久利層 (久見層を含む) Kawai-Kuri Formation (with Kumi Formation)	K <sub>3</sub>	流紋岩-デイサイト溶岩・火砕岩 Rhyolite to dacite lava and pyroclastics	
		K <sub>2</sub>	礫岩・砂岩 Conglomerate and sandstone	
		K <sub>1</sub>	安山岩溶岩・火砕岩 Andesite lava and pyroclastics	
波多層 Hata Formation		Hgr	花崗岩 Granite	
		Hqd	石英閃緑岩-はんれい岩 (一部トナール岩を含む) Quartz diorite to gabbro (partly with tonalite)	
		H <sub>3</sub>	安山岩溶岩・火砕岩 (一部玄武岩を含む) Andesite lava and pyroclastics (partly with basalt)	
		H <sub>2</sub>	流紋岩-デイサイト溶岩・火砕岩 Rhyolite to dacite lava and pyroclastics	
		H <sub>1</sub>	礫岩・砂岩・頁岩・含礫泥岩 Conglomerate, sandstone, shale and pebbly mudstone	
	後期古第三紀 Late Palaeogene		G <sub>3</sub>	花崗岩・花崗斑岩・文象斑岩・石英斑岩 (打点部: 苦鉄質捕獲岩に富む) Granite, granite porphyry, granophyre and quartz porphyry (dotted part: rich in mafic xenolith)
			G <sub>1g</sub>	流紋岩-デイサイト溶岩・火砕岩 Rhyolite to dacite lava and pyroclastics
前期古第三紀 Early Palaeogene			G <sub>2</sub>	花崗岩 (一部花崗斑岩を含む) Granite (partly with granite porphyry)
		Gd <sub>2</sub>	花崗閃緑岩 Granodiorite	
白亜紀 Cretaceous		Vr <sub>1</sub>	流紋岩-デイサイト溶岩・火砕岩・凝灰質砂岩・頁岩 (包智層群、阿武隈群、高田層群など) Rhyolite to dacite lava and pyroclastics, tuffaceous sandstone and shale (Oochi, Abu and Takada Groups, etc)	

## ①地形・地質の視点（地盤、造成）からの考察

### （地盤）

基礎地盤は、安山岩系の岩盤であるため、強固で安定性があります。また、埋め戻し（盛土）されている「すり」は、土質が砂礫であり、沈下やすべりといった問題は小さいものの、十分に締め固められていない可能性があるため、直接、支持地盤に適用できるかどうか確認が必要になります。（これは「施設基本計画」策定段階のボーリング調査により盛土の層厚や支持層を確認することになります。）

### （造成）

「すり」による埋め戻し（盛土）が行われて整地されていることから、平坦地が比較的多く、敷地造成工事による地形改変は軽微になるものと考えられます。また、「すり」は水はけの良い砂礫であるため、地下水位は低い位置にあるものと推測されます。一方で、腹付け盛土について、地山（岩盤）との境界に段差や空隙が見られたことから、設計・施工段階において、法面整形による段差の解消や、排水路の設置による雨水浸透防止等を行い、盛土内に地下水が貯留しないように（構造に）することが必要になります。

## ②生活環境の視点（建設候補地周辺、アクセス道路周辺）からの考察

### （建設候補地周辺）

建設候補地周辺には民家がほとんどないため、施設の建設工事中並びに施設稼働時において、生活環境（住環境）に影響を及ぼす可能性は低いと考えられます。

### （アクセス道路周辺）

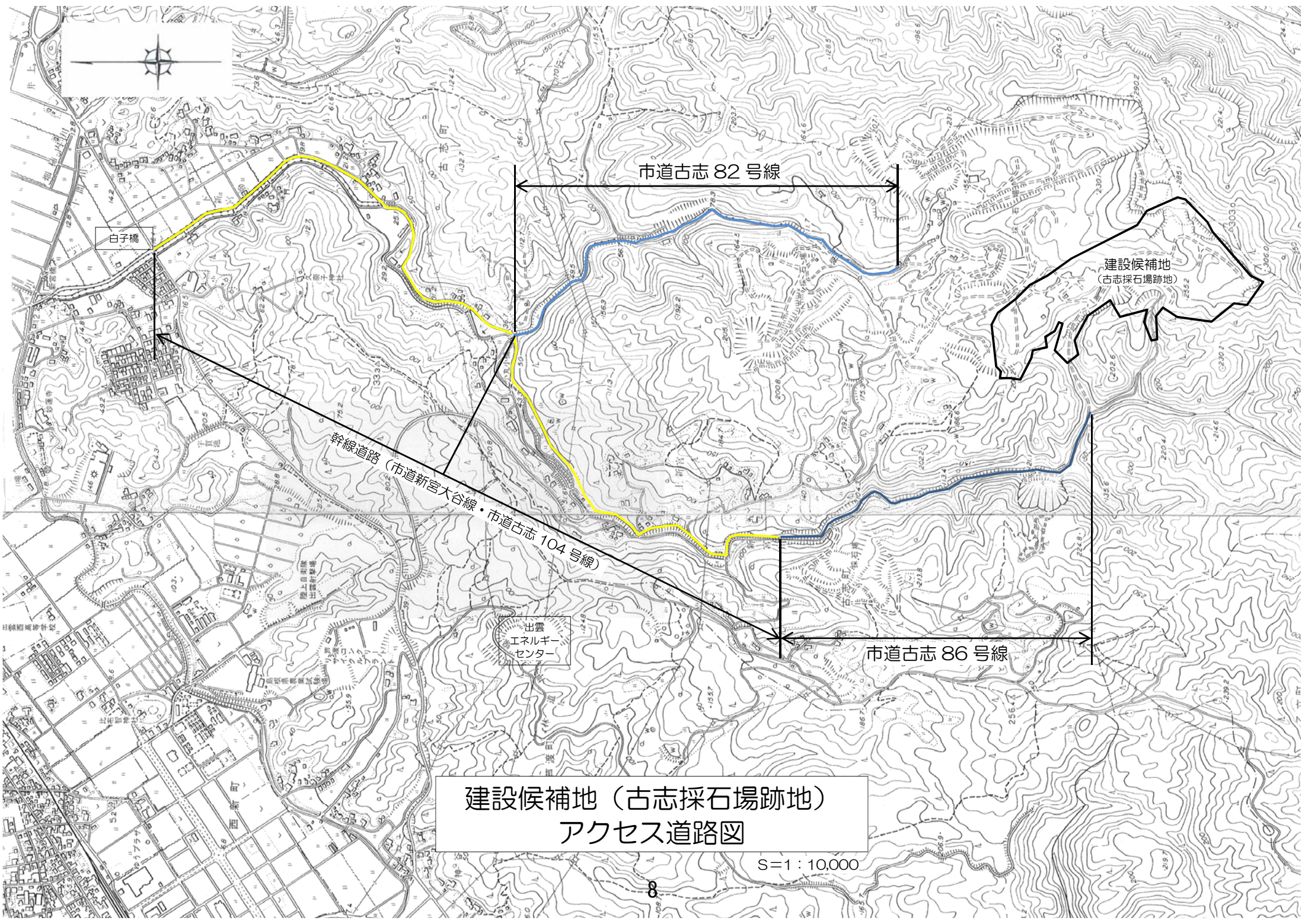
幹線道路（市道新宮大谷線・市道古志104号線）から建設候補地までのアクセス道路は、次の道路が想定されます。（次頁図面のとおり）

○市道古志82号線（湯舟川沿い）

○市道古志86号線（新宮川沿い）

市道古志82号線は、現在、操業している採石場とのアクセス道路として活用されており、多くの運搬ダンプが往来しています。これを次期施設のアクセス道路として活用する場合、建設工事時には、これに加え工事関係車両、施設供用時にはごみ収集運搬車等が加わることになります。これらの車両の走行に伴う大気汚染、騒音及び振動の影響が考えられますが、当該道路沿道（周辺含む）には民家がほとんどないことから、施設の建設工事中並びに施設稼働時において、生活環境（住環境）に影響を及ぼす可能性は低いと考えられます。

一方、市道古志86号線については、現在、採石場とのアクセス道路として活用されていませんが、次期施設のアクセス道路として活用する場合は上記と同様の影響が考えられます。しかし、道路沿道（周辺含む）には、上記路線と同様に、民家がほとんどないことから、施設の建設工事中並びに施設稼働時において、生活環境（住環境）に影響を及ぼす可能性は低いと考えられます。



市道古志 82 号線

建設候補地  
(古志採石場跡地)

幹線道路 (市道新宮大谷線・市道古志 104 号線)

市道古志 86 号線

建設候補地 (古志採石場跡地)  
アクセス道路図

S=1 : 10,000

白子橋

出雲  
エネルギー  
センター





### ③自然環境の視点（植生、生物生息）からの考察

#### （植生）

建設候補地の大部分は、埋め戻し（盛土）による跡地整理が行われ、現在、植生途上地となっています。また、建設候補地周辺は、採石事業が継続して行われており、植生はなく、尾根部にスギ・ヒノキ、アカマツ等の植林、斜面部にヤシャブシ等の植林が残存するのみとなっています。このことから、自然的な植生はほとんどない状況にあります。

#### （生物生息）

建設候補地の大部分は、埋め戻し（盛土）による跡地整理が行われ、また、建設候補地周辺においても、大型重機による掘削等の採石事業が継続して行われ、騒音等が発生していることから、生物生息には適していない環境にあります。

一方で、建設候補地西側には自然溪流が流れていることから、水生生物の生息環境が見受けられ、また、この溪流と建設候補地とが比較的近いことから、敷地造成工事において濁水が発生した場合、この溪流の生物生息環境に影響を及ぼす恐れがあります。よって、設計・施工段階においてその対策が必要になります。また、この溪流付近にある市道古志86号線をアクセス道路として整備する場合は、この溪流について十分な調査を行い、希少な生物が確認された場合はそれに応じた環境保全措置が必要になります。

### ④その他の視点（施工ヤードの確保、工事用道路としての活用、周辺の採石事業の操業、アクセス道路の安全性）からの考察

#### （施工ヤードの確保）

敷地造成工事及び建設工事を行う際、工事用重機や資材置場等の施工ヤードが必要になりますが、建設候補地周辺は市有地が広大にあることから同ヤードが周囲に多く確保でき、工事の際の効率性及び利便性が高くなります。

#### （工事用道路としての活用）

敷地造成工事及び建設工事を行う際、建設用地まで現道があるか、またはアクセス道路をそれまでに整備する必要がありますが、当該地は、市道古志82号線及び市道古志86号線が既にアクセス道路としてあり、両路線ともそのまま工事用道路として活用できる状況にあります。よって、アクセス道路の改良工事を行う場合でも、上記路線を活用して敷地造成工事及び建設工事を行うことができ、効率性が確保できるほか、工期の短縮にもつながります。

#### （周辺の採石事業の操業）

現在、建設候補地周辺において採石事業が操業されていることから、施設の建設工事中並びに施設稼働時において、上記アクセス道路や採石事業地内道路を走行する際、同事業の操業に支障が出ないよう調整を図る必要があります。

#### （アクセス道路の安全性）

アクセス道路はごみ収集運搬車のみならず、直接搬入に伴う一般車両も安

全に走行できるような幅員等を確保する必要があることから、アクセス道路として想定される「市道古志 82 号線」、「市道古志 86 号線」について道路改良の施工性、経済性等を比較検討し改良等行う必要があります。

**考察のまとめ**

上記4つの視点を基に現地踏査（調査）を行った結果、今後、「施設基本計画」、「環境影響調査」、「敷地造成設計・工事」等の段階において検討すべき事項はあるものの、現時点において専門的知見から見て施設建設にあたり技術的に解決が困難と思われるような事項は見当たらない状況でした。

**【建設候補地の決定について】**

上記の結果（**考察のまとめ**）を受け、最終的な建設候補地を「古志採石場跡地」と決定いたします。

**【今後の予定】**

建設候補地の決定に伴い、今後、地元地区（古志地区）に対して説明を行い、建設に向けた合意形成に努めてまいります。

**【参考】「次期可燃ごみ処理施設」の整備スケジュールについて**

番号	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度
	年目	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
①	施設計画概要の整理	←→									
②	建設用地選定	←→									
③	「循環型社会形成推進地域計画」策定			←→							
④	地元説明会（地元同意）			←→							
⑤	用地調査・用地取得				←→	←→	←→				
⑥	環境影響調査				←→	←→	←→				
⑦	都市計画決定					←→	←→				
⑧	施設基本計画（処理システム選定含む）				←→	←→					
⑨	同検討委員会				←→	←→					
⑩	敷地造成設計・工事					←→	←→	←→			
⑪	事業者（プラントメーカー）選定						←→	←→			
⑫	建設工事							←→	←→	←→	
⑬	試運転										←→

※現段階では、用地及び施設整備の詳細が未定であるため、内容及びスケジュールが変動する場合があります。